



<問い合わせ先>

北海道運輸局 国際観光課 笹野・志岐

TEL : 011-290-2723

令和6年8月22日

北海道運輸局

北海道における宿泊旅行統計調査をまとめました。

(令和6年1-3月期 (暫定値))

- ・北海道運輸局では、北海道における宿泊旅行者の動向や実態を把握することを目的として、観光庁が実施している「宿泊旅行統計調査」をもとに、北海道における宿泊旅行統計調査をまとめ、あわせて全国との比較をとりまとめております。
- ・観光庁が実施した調査結果については、以下のURLからご覧下さい。(観光庁HP)
(https://www.mlit.go.jp/kankocho/tokei_hakusyo/shukuhakutokei.html)

【令和6年1-3月期 (暫定値) の主な特徴】

【延べ宿泊者数】

約928.7万人泊。令和5年同期比5.2%増(約883.1万人泊)、令和元年同期比0.02%増(約928.5万人泊)。

コロナ禍前である令和元年同期とほぼ同数の宿泊数となった。

都道府県別順位では北海道は全国第3位。

【外国人延べ宿泊者数】

約287.0万人泊。令和5年同期比53.1%増(約187.4万人泊)、令和元年同期比8.4%減(約313.4万人泊)。

前年同期より増加したもののコロナ禍前の数値に達しなかった。

都道府県別順位では北海道は全国第4位。(前年同期 第3位)

【国籍別外国人延べ宿泊者数順位】

第1位が韓国(20.9%)、第2位が台湾(20.7%)、第3位が中国(15.9%)。

令和元年同期は第1位が中国(28.8%)、第2位が台湾(15.2%)、第3位が韓国(14.5%)であった。

中国は、国際定期便数が令和元年同期に比べ約26.5%減便されていることや中国国内の経済状況の悪化などにより、中国人の中国国内旅行へシフトしたことや北海道内でのシェア減少が考えられる。

1. 延べ宿泊者数

【延べ宿泊者数】

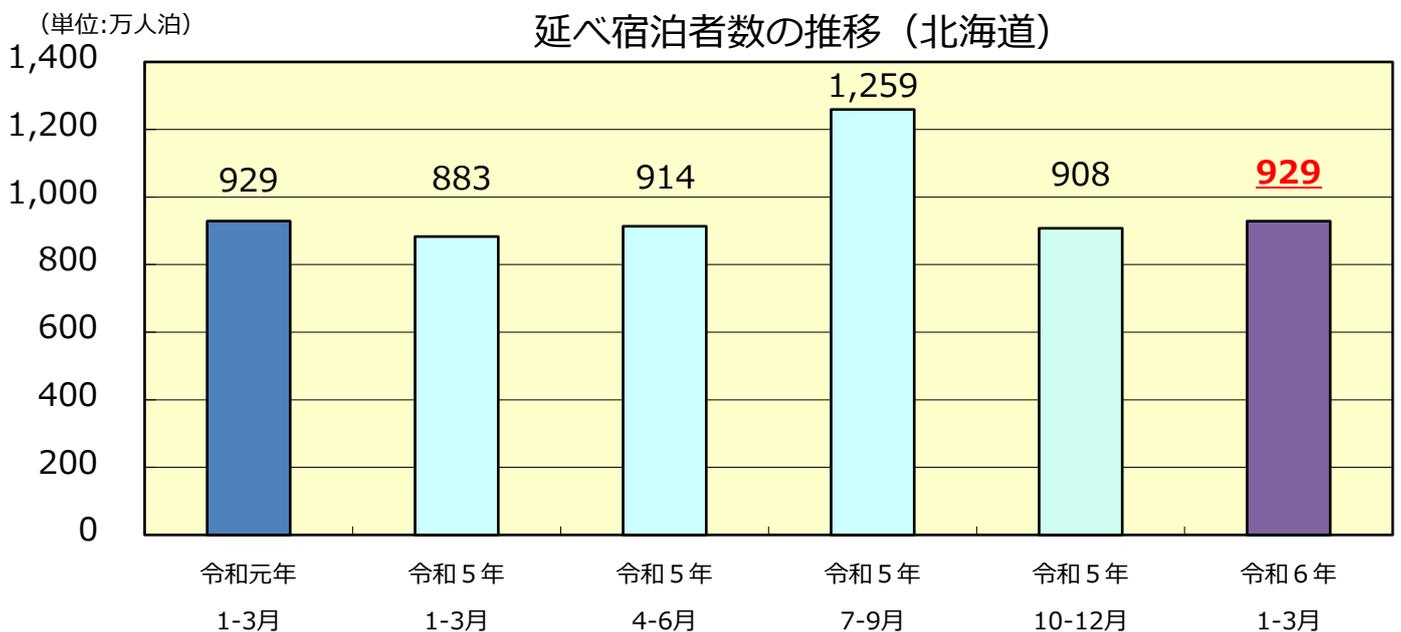
- ・全国は約1億4,861万人泊、北海道は約929万人泊（全国の6.2%）。

【延べ宿泊者数の前年等同期比較】

- ・全国は令和5年同期比8.1%増、令和元年同期比8.2%増。
 - ・北海道は令和5年同期比5.2%増、令和元年同期比0.02%増。
- 北海道は令和元年同期とほぼ同数の値となった。

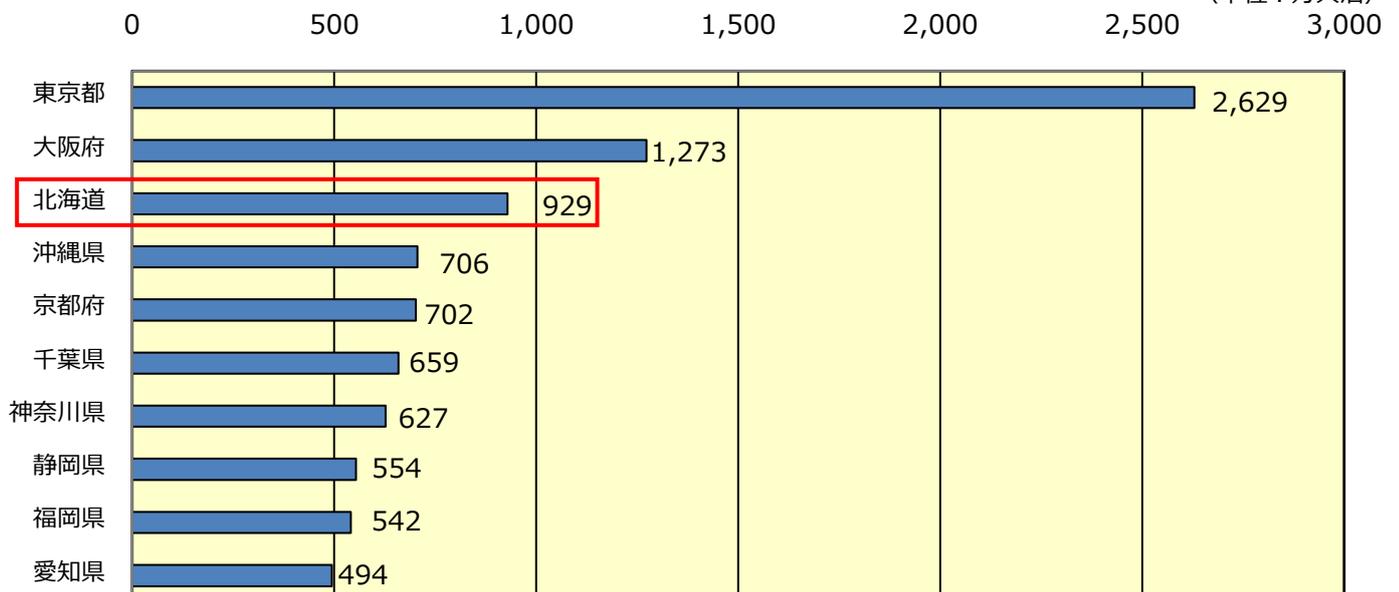
【都道府県別延べ宿泊者数】

- ・第1位は東京都、第2位は大阪府、第3位は北海道（前年同期 第3位）。



都道府県別延べ宿泊者数（上位10位）

(単位:万人泊)



2. 外国人延べ宿泊者数

[外国人延べ宿泊者数]

・全国は約3,574万人泊、北海道は約287万人泊（全国の8.0%）。

[外国人延べ宿泊者数の前年等比較]

・全国は令和5年同期比74.5%増、令和元年同期比27.6%増。

・北海道は令和5年同期比53.1%増、令和元年同期比8.4%減。

北海道における外国人延べ宿泊者数は前年同期より増加したが、コロナ禍前の数値には達しなかった。

[都道府県別外国人延べ宿泊者数]

・第1位は東京都、第2位は大阪府、第3位は京都、第4位は北海道（前年同期 第3位）。

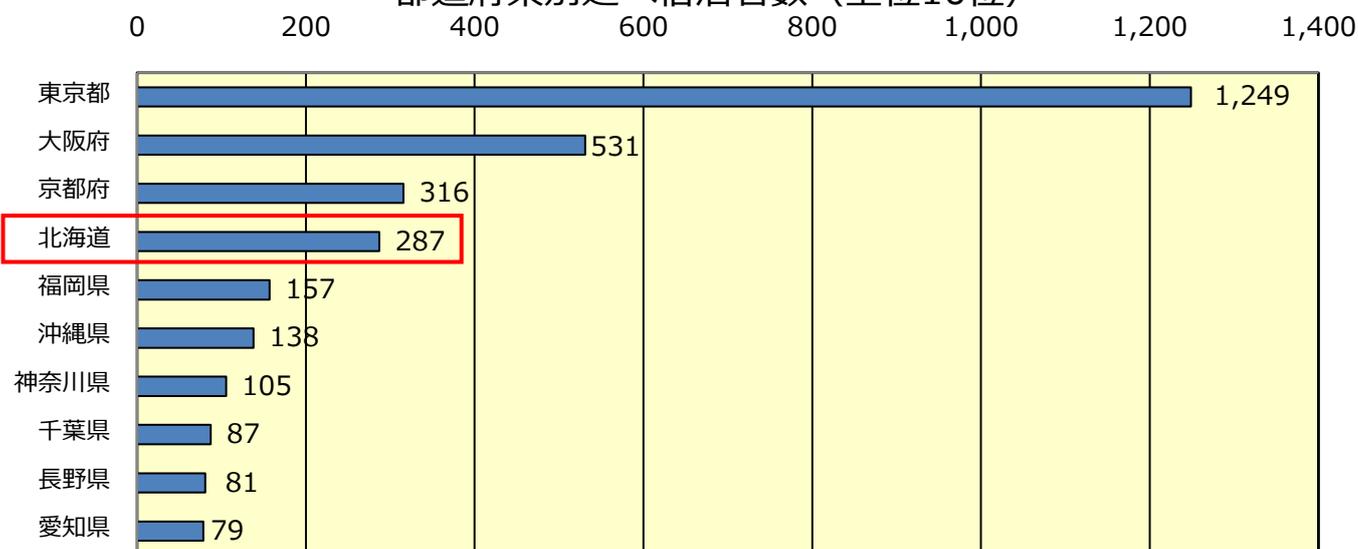
(単位：万人泊)

外国人延べ宿泊者数の推移（北海道）



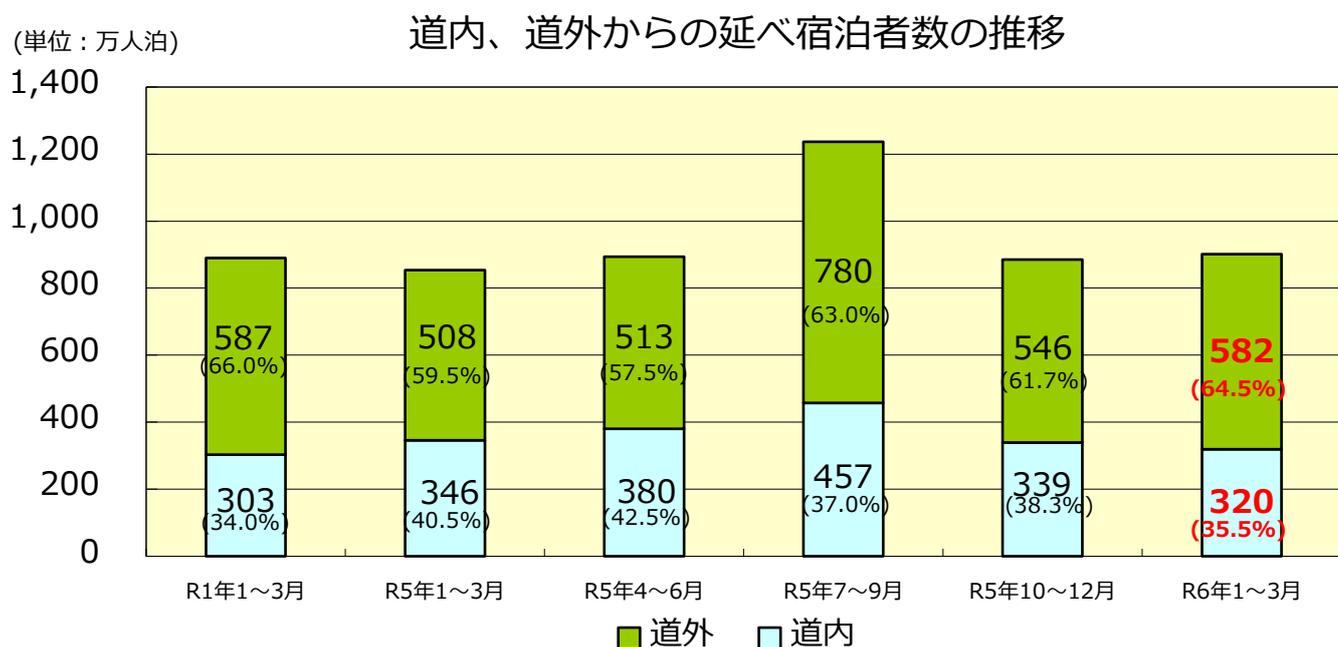
都道府県別延べ宿泊者数（上位10位）

(単位：万人泊)



3. 道内・道外からの延べ宿泊者数

- ・道内からの延べ宿泊者数は約320万人泊、道外（外国人を含む）からの延べ宿泊者数は約582万人泊。道内及び道外の延べ宿泊者数の割合は、道内35.5%、道外64.5%となっている。
- ・前年同期と比較して、道内からの延べ宿泊者数が7.6%減、道外からの延べ宿泊者数が14.6%増となった。道外からの延べ宿泊者数増加の要因として、コロナ禍で規制されていた各地の冬のイベントが通常開催されたことが増加に繋がったと考えられる。
- ・令和元年同期と比較して道内からの延べ宿泊者数は上回ったものの、道外からの延べ宿泊者数がやや下回る結果となった。

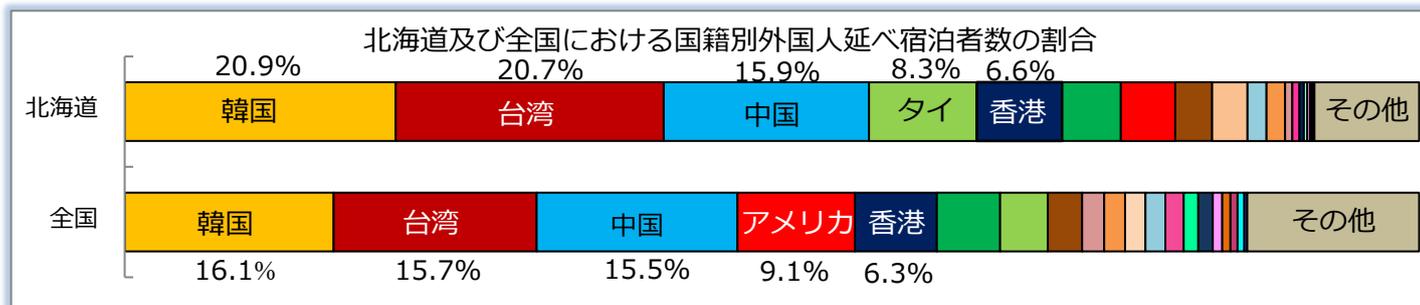


注：グラフの数値は居住地不詳者を除いているため、延べ宿泊者数の合計の数値と一致しない。

4. 北海道における国籍別延べ宿泊者数

- ・北海道における令和6年1～3月の国籍（出身地）別延べ宿泊者数は、2,621,180人となり、第1位は韓国(20.9%) 第2位は台湾(20.7%)、第3位は中国(15.9%)となっている。
- ・北海道は全国に比べ、アジアの比率が高い。スキー、アドベンチャートラベル市場規模の大きい豪州市場や、道内延べ宿泊者数が令和元年同期1位であった中国の回復が遅れている。

順位	国籍	北海道		全国	北海道	北海道
		(人泊)	シェア	シェア	令和5年同期比	令和元年同期比
1	韓国	548,810	20.9%	16.1%	40.0%	33.4%
2	台湾	542,380	20.7%	15.7%	58.4%	25.0%
3	中国	415,920	15.9%	15.5%	455.4%	-49.3%
4	タイ	218,340	8.3%	3.7%	58.9%	5.4%
5	香港	173,110	6.6%	6.3%	4.1%	-17.7%
6	オーストラリア	118,630	4.5%	4.9%	33.9%	-24.2%
7	アメリカ	110,200	4.2%	9.1%	48.9%	29.6%
8	シンガポール	74,580	2.8%	2.7%	15.5%	-0.5%
9	マレーシア	71,640	2.7%	1.6%	51.1%	16.3%
10	インドネシア	38,510	1.5%	1.5%	83.4%	29.4%
11	フィリピン	37,480	1.4%	1.6%	104.4%	47.3%
12	イギリス	14,700	0.6%	1.7%	49.1%	-12.3%
13	カナダ	14,440	0.6%	1.4%	89.5%	38.4%
14	フランス	8,990	0.3%	1.1%	110.5%	44.1%
15	ドイツ	6,930	0.3%	1.1%	71.1%	18.9%
16	インド	5,690	0.2%	0.6%	253.4%	225.1%
17	ベトナム	3,370	0.1%	0.5%	73.7%	39.3%
18	イタリア	2,360	0.1%	0.7%	77.4%	77.4%
19	スペイン	1,530	0.1%	0.5%	59.4%	-11.6%
20	ロシア	1,470	0.1%	0.2%	107.0%	-82.1%
	その他	154,420	5.9%	9.2%	65.1%	14.1%
	国籍不祥	57,680	2.2%	4.0%	-38.6%	-58.3%
	合計	2,621,180	100.0%	100.0%	59.2%	-7.9%



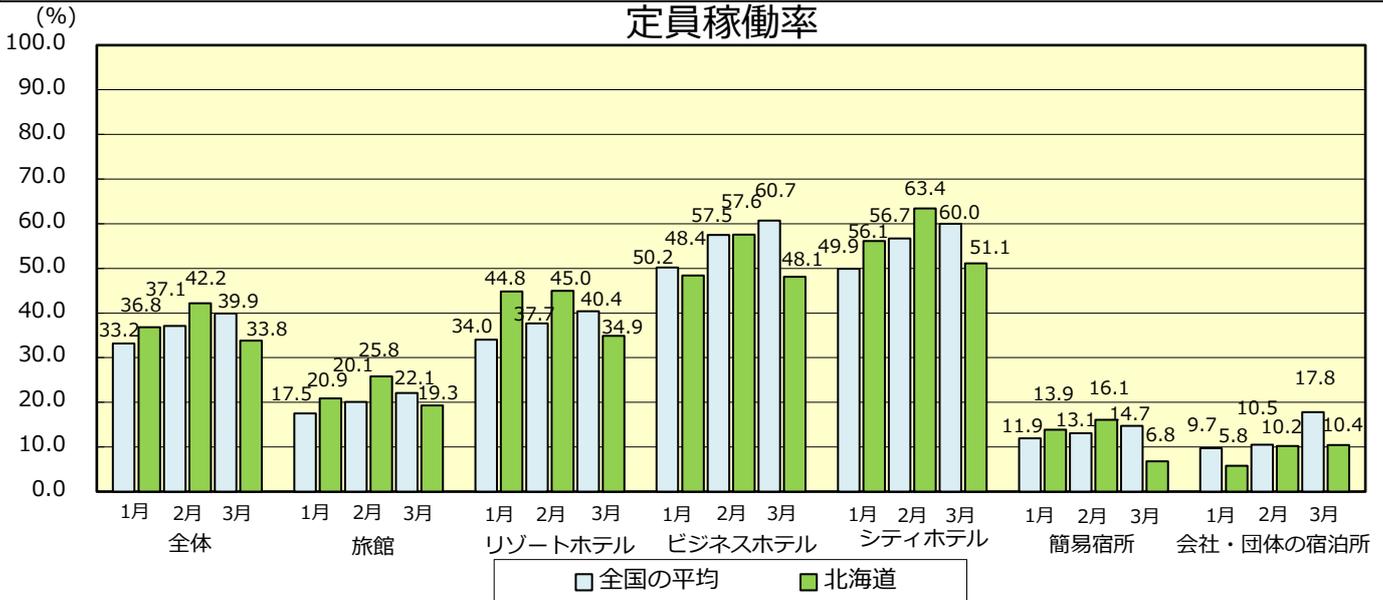
※国籍別に関する項目については、従業者数10人以上の施設に対する調査から集計しているため、国籍（出身地）別外国人延べ宿泊者数は外国人延べ宿泊者数の数値と一致しない。

※北海道及び全国における国籍別外国人延べ宿泊者数の割合のその他は国籍不祥も含まれている。

5. 定員稼働率及び客室稼働率

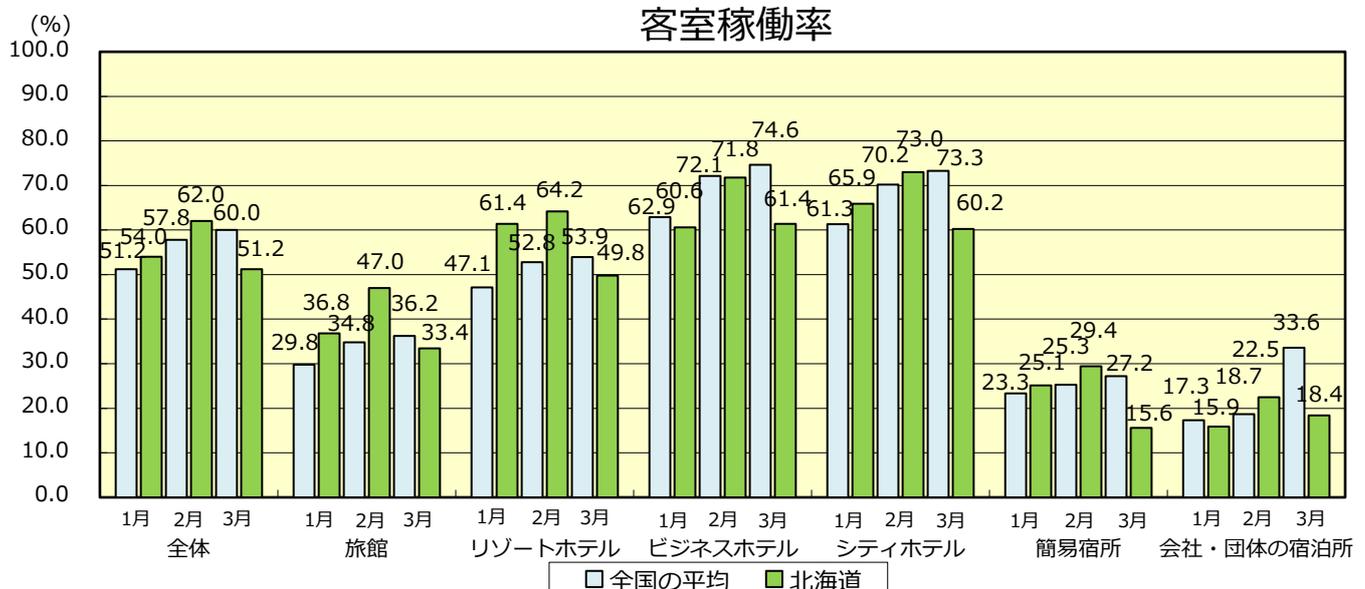
【定員稼働率】

- ・北海道の定員稼働率（全体）は、1月、2月において全国平均を上回っている。
- ・施設タイプ別では、1月、2月共にリゾートホテルの定員稼働率が大きく全国平均を上回り、2月は会社・団体の宿泊所を除く全ての施設タイプにおいて定員稼働率が全国平均を上回っている。要因として、冬休みを利用した家族旅行やスキーシーズンによる影響が考えられる。3月は全ての施設タイプにおいて定員稼働率が全国平均を下回っている。
- ・北海道を前年同期と比較すると旅館・簡易宿所を除く全ての施設タイプにおいて客室稼働率が伸びている（全体の令和5年同期比:8.1%増）。特にリゾートホテル(令和5年同期比:29.2%増)の伸びが大きい。



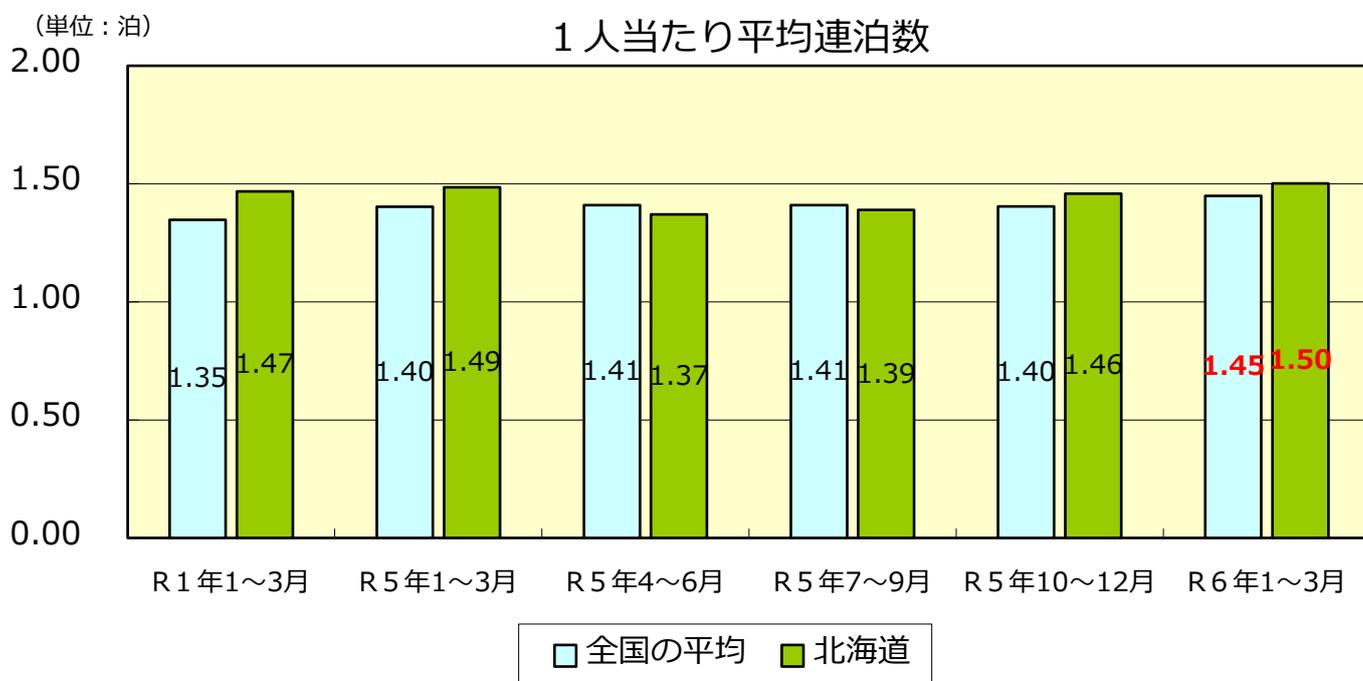
【客室稼働率】

- ・北海道の客室稼働率（全体）は、1月、2月において全国平均を上回っている。
- ・施設タイプ別では、1月はリゾートホテルが全国平均を大きく上回り、2月はリゾートホテルだけでなく旅館も大きく全国平均を超えている。要因として、スクールホリデーや旧正月等インバウンドの旅行需要が影響したと考えられる。3月は全ての施設タイプにおいて客室稼働率が全国平均を下回っている。
- ・北海道を前年同期と比較すると全ての施設タイプにおいて客室稼働率が伸びている(全体の令和5年同期比:12.6%増)。
特にリゾートホテル(令和5年同期比:47.4%増)、簡易宿所(令和5年同期比:23.0%増)の伸びが大きい。

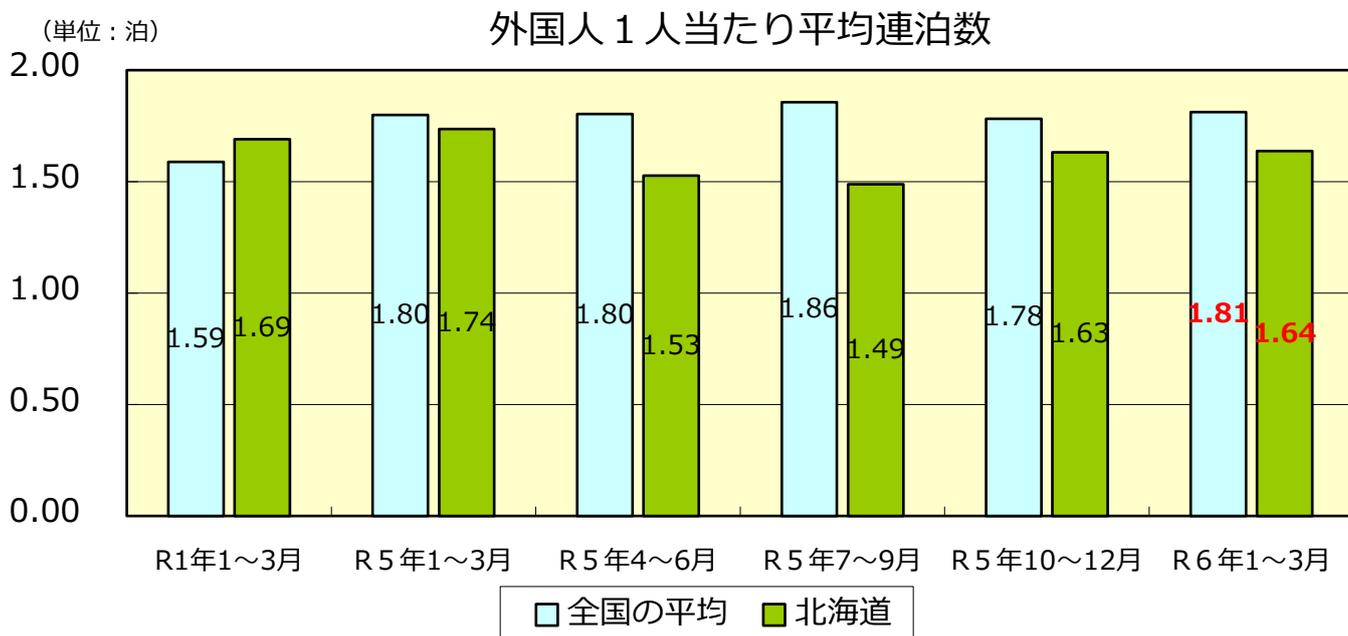


6. 宿泊施設における1人当たり平均連泊数

- ・宿泊施設における1人当たり平均連泊数は、全国平均1.45泊、北海道1.50泊となった。
前年同期と比較すると全国は0.05ポイント増加、北海道は0.01ポイント増加。
令和元年同期と比較すると全国は0.1ポイント増加、北海道は0.03ポイント増加となった。



- ・宿泊施設における外国人1人当たり平均連泊数は、全国平均1.81泊、北海道1.64泊となった。
前年同期と比較すると、全国は0.01ポイント増加、北海道は0.1ポイント減少。
令和元年同期と比較すると全国は0.22ポイント増加、北海道は0.05ポイント減少となった。



宿泊旅行統計調査の活用における留意点

平成22年第2四半期(4~6月調査)から、従業者数10人未満の施設も調査対象となりました。

調査結果をご活用の際はご注意ください。

● 遡及推計(確定値)とは

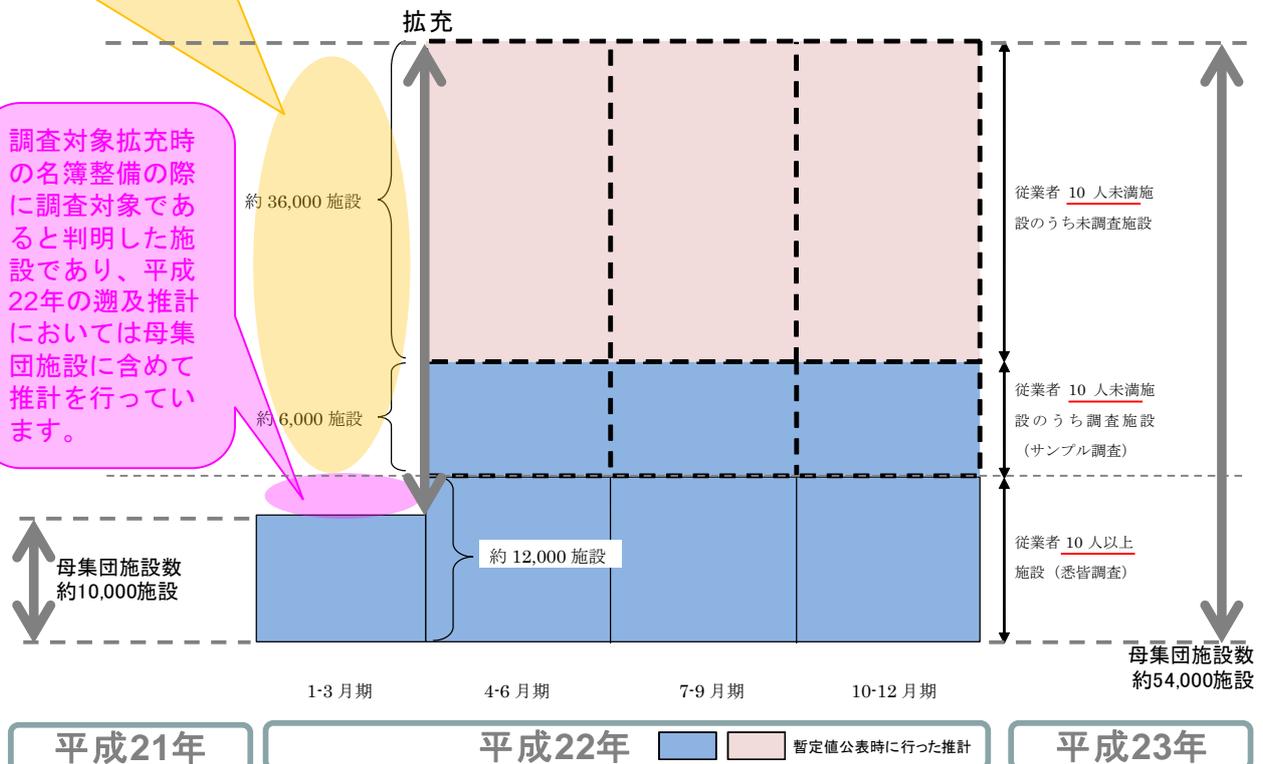
・1月1日現在の施設数を母集団施設数として1年間固定させ推計を行う四半期毎公表の暫定値とは違い、月毎の開業・廃業等を反映させた月毎の母集団施設数を基に推計を行ったものが遡及推計(確定値)です。

● 平成22年遡及推計の特徴

・平成22年第2四半期調査より調査対象を拡充しており、基本とする母集団施設数は拡充後の第2四半期のものです。また、第1四半期には調査対象外であった従業者数10人未満の宿泊施設等についての数値は一部参考値以外は推計を行っていません。経年比較等する場合には、従業者区分等にご注意下さい。

遡及推計概要図

遡及推計においても推計を行っていません。



調査対象拡充の概要

1. 平成22年第1四半期以前の調査

(1) 調査対象施設:平成16年度事業所・企業データベース(総務省)を基に、国土交通省観光庁で補正を加えた名簿から抽出した、全国の従業者数10人以上のホテル、旅館、簡易宿所の宿泊施設

(2) 集計結果:全国の従業者数10人以上の宿泊施設における延べ宿泊者数等の推計値

2. 平成22年第2四半期以降の調査

(1) 調査対象施設:統計法第27条に規定する事業所母集団データベース(総務省)を基に、国土交通省観光庁で補正を加えた名簿から抽出した、全国のホテル、旅館、簡易宿所、会社・団体の宿泊所などの宿泊施設

調査施設については、従業者数に応じて以下のとおり

- 従業者数10以上の事業所 : 全数(悉皆)調査
- 従業者数5人~9人の事業所 : 1/3を無作為に抽出してサンプル調査
- 従業者数0人~4人の事業所 : 1/9を無作為に抽出してサンプル調査

(2) 集計結果:全国のすべての宿泊施設における延べ宿泊者数等の推計値